

# Goldman-Rakic の記念シンポジウムの報告記

---

Kavli Symposium in Memoriam of Patricia S. Goldman-Rakic  
“Prefrontal Cortex, Working Memory and Flexible Behavior”

船橋新太郎(京都大学・大学院人間・環境学研究科認知・行動科学講座認知科学分野)

今年(2006年)の5月4日・5日の2日間、エール大学医学部で、故 Patricia Goldman-Rakic 教授を記念するシンポジウムが開催された。2003年の7月末に起きた交通事故による彼女の突然の死は、世界の神経科学者に大きな驚きと突然の悲しみを与えた。前頭連合野の機能に関する研究では世界の第1人者であり、60代の半ばではあったが、Pasko Rakic 教授とともにますます研究を展開させていく矢先の事故死は、彼女の共同研究者であった者はもちろん、高次脳機能の研究に関係する者すべてに対する大きな損失であった。彼女の行っていた前頭連合野の機能に関する研究をサポートし、さらに展開を図る目的で、Kavli Foundation がエール大学医学部に彼女を Director とする Kavli Institute for Neuroscience の設立を計画していた矢先に、彼女が亡くなってしまった。しかし、彼女の意志を受け継ぎ、高次認知機能に関する研究を目的とする上記の研究所がエール大学に設置され、この研究所が開催する第1回目のシンポジウムとして、今回のシンポジウムが計画された。彼女の突然の事故死を乗り越えると同時に、彼女の残した研究を引き継ぎ、さらに展開を図るべく開催されたのが、このシンポジウムである。

シンポジウムのテーマは、彼女が研究のテーマとしていた“Prefrontal Cortex, Working Memory, Flexible Behavior”である。2日間のシンポジウムは午前と午後のセッションに分けられ、各セッションは彼女のもとで研究生活を送った女性研究者4名(Amy Arnsten, Carmen Cavada, Adele Diamond, Liz Romanski)が司会を務めた。各セッションの最初には基調講演が置かれ、4日午前のセッションの基調講演は NIH の Tom Insel 氏が、午後は Paul Greengard 氏が、そして、5日午前には Eric Kandel 氏、午後は Arvid Carlsson 氏が行った。晩年彼女が中心課題としていた統合失調症に関わる報告が中心で、統合失調症の原因解明に向けた彼女の研究を称えるとともに、こころざし半ばで突然亡くなった彼女への追悼の講演でもあった。しかし、いずれの基調講演も、基礎的な研究をベースに置いているものの、その成果を精神疾患の原因解明や有効な治療法の開発に資するように向けたもので、今後の神経科学的研究の方向性を示すもののように感じられた。

基調講演に続く講演では、彼女のもとで共同研究者として研究生活を過ごした者と、彼女と深い関わりのある研究者とを組み合わせ発表が行われた。4日の午前のセッションでは、Helen Barbas, Joaquin Fuster, Michael Petrides 氏に加えて共同研究者だった私が、午後のセッションでは、Mark D’Esposito, Bob Night, Alan Baddeley 氏に加えて共同研究者だった Liz Romanski, Adele Diamond が、5日の午前のセッションでは、Earl Miller, Jeff

Schall、Xiao-Jing Wang、David McCormick 氏に加えて共同研究者だった Christos Constantinidis が、そして、午後のセッションでは、Dan Weinberger、渡辺正孝、Daeyeol Lee、Trevor Robbins 氏に加えて共同研究者だった Amy Arnsten、Carmen Cavada が講演を行った。

いずれの演者も、彼女が研究テーマとしていた前頭連合野、ワーキングメモリ、前頭葉ドーパミン系、そして統合失調症に関する第一線の研究者であり、これらの演者が最近の研究成果を紹介することから、前頭連合野の機能を研究している者にとっては貴重な会であった。これを反映してか、多くの聴講希望が全米から寄せられることになったようであるが、200 名あまりしか入れない階段教室が会場であり、講演者、Kavli Foundation の関係者、エール大学の関係者、学生、彼女の共同研究者やポストドクだった者を優先的に入れるようにしたため、多くの聴講希望者の希望がかなえられなかったようである。

彼女の後任として多くの研究者の名前が挙がったようであるが、最終的には計算論的研究を行っている Xiao-Jing Wang、意志決定メカニズムの研究で頭角を現している Daeyeol Lee の両氏が後任として今年中に着任することになっている。